

第9回 篠山再生市民会議 会議録(要旨)

(記録：企画課)

日 時：平成19年11月15日(木) 13:30～16:50
場 所：[全体会 西紀公民館 2階 多目的ホール] [分科会 西紀支所 2階 会議室]
出席者：篠山再生市民会議委員(杉田委員、金野委員欠席)、庁内調整会議職員
傍聴者：4名

会議次第：

1 開会

2 報告事項

(1)篠山再生計画(行財政改革)に対する第1次答申について…資料1

(2)篠山再生計画策定に伴う行政内部の取組み経過について…資料2

3-1 協議事項(全体会)

(1)市民会議における各委員の取組み希望項目について…資料3 資料3-1

(2)議会・市民への意見聴取について

3-2 分科会

3-3 協議事項(全体会)

(1)分科会の報告

(2)当面のスケジュール

4 閉会

決定事項等

- ・次回は、市民会議(全体会)として自治会長会との意見交換会を行う。意見交換会での自治会長会への質問があれば、各委員はあらかじめ事務局へ提出する。
- ・市民会議として市民アンケートを来年1月に実施することとし、まずは各委員からの質問案を事務局まで提出してもらい、次回の市民会議でアンケートの内容について検討する。
- ・議員アンケートについては来春の実施に向けて、引き続き検討する。
- ・補助金に関する分科会：補助事業の精査を行う。補助事業ごとに、目的と補助率がわかる資料を事務局に作成してもらい、今後、検討順序を決めていく。
- ・施設維持管理に関する分科会：学校、支所・公民館について、教育委員会担当者にヒアリングし、協議していく。

議事要旨

2 報告事項

(1)篠山再生計画(行財政改革)に対する第1次答申について…資料1

(議 長) 前回の会議の議論を反映させて第1次答申最終案を作成した。新聞等で報道されたのでご存知かと思うが、11月2日に副議長と二人で市長に答申を提出した。委員の皆さん一人ひとりの思いが十分に反映されているかは完全に自信があるわけではないので、その点は意見をいただければと思う。今後このような答申を何度か出していくことになると思うので、皆さんの思いがあれば、次の機会にできるだけ反映させていきたい。

(2)篠山再生計画策定に伴う行政内部の取組み経過について…資料2

(議 長) 再生計画策定に伴う行政内部での取組み経過を報告いただきたい。また、県の行革案が出されたが、市の財政にどのような影響を及ぼすのか、現時点での情報があれば出してもらいたい。

(事務局) 篠山再生計画策定に伴う行政内部の取組み経過については資料2にまとめている。まずは平成20年度に実施できるものについて、予算編成に間に合うように項目を出し、来年1月から3月にかけて、平成22年度までの再生計画案の基本方針と検討項目を出していきたい。検討項目については現在詰め段階で、この場に提示できない状況だが、今年中にまとまった段階で報告したい。

県の新行革プランについては、市の考え方を求められ、県へ意見書を提出

した。県民局の統合や補助金の見直しなどが挙げられているが、現行制度存続の立場で意見を出している。影響額の積算は難しいが、市民サービスを現行水準で維持しようとした場合、県の補助等を補填することで市の負担が増えるものもあれば、県の行革によって追隨して市の負担も減るものもある。概算で、市の負担が増えるものとして 7,000 万円程度、市の負担が減るものとしては 1~ 2,000 万円程度と見込んでいる。

(A 委員) 県の行革への対応について、市の行革の方針と整合が取れるように、内部で充分検討いただきたい。

(議長) 県の行革により、数千万円の規模で影響する可能性があるとのことだが、今後事情に変化があれば報告いただきたい。
行政内部の取組み項目については、まだ検討段階だと言うが、それを市民会議に出してもらうことはできないか。

(事務局) 組織として、理事者の判断を経てから公表したい。平成 20 年度に取組む項目については来年 1 月には公表できる見込みである。

(B 委員) 組織として検討項目や再生計画案が出るということは、職員組合も納得したうえで公表されるという理解でよいか。

(事務局) 市民会議から 57 歳勧奨退職や給与 20% 削減といった答申をいただいているが、再生計画としてまとめるにあたり、11 月頃から理事者側と職員組合とで断続的に協議がなされる予定で、決着が付いた項目しか計画に載せられないだろう。

(議長) 再生計画の策定については、市民会議からの答申と並行して、行政内部で検討がなされ、その後、両案をどこかで合体させて再生計画の案が出てくる、というイメージを持っていた。現在、行政内部で案を検討していると言うが、今回の答申内容をそれに反映・吸収させて再生計画の案を作るという理解でよいのか。庁内調整会議やプロジェクトチーム、推進本部会議といった組織があるが、どこが再生計画の案を作るのか。

(事務局) 資料 2 の補足として、9 月 4 日に部長級で構成する「篠山再生計画推進本部会議」を開催し、初回庁内検討項目として 163 項目を報告した。その後 10 月から 11 月にかけて各課ヒアリングや第 2 回庁内検討項目の取りまとめを行っており、最終的には議長が市長となっている「篠山再生計画推進本部会議」にかけて、市長が最終決定する取組みとなっている。

来年 1 月から 3 月にかけて行政内部で篠山再生計画（行財政改革編）の案は作るが、「篠山再生市民会議」からは篠山再生計画（行財政改革編）に対する第 1 次答申をいただいております。来年 6 月頃には最終答申をいただく予定であり、「篠山再生市民会議」からの意見も聞き、パブリックコメント等も行いながら策定するものだと考えている。最終的には行政が作るものに近いと思うが、市民の意見をいただいたなかで策定していくべきものだと思う。

(A 委員) 市民会議での検討、答申は重みを持っているのか。

(議長) 再生計画案は推進本部会議から出てくる。推進本部会議の議長は市長であり、我々は市長に答申を出したので、市長が答申を活かしてくれるだろうと信頼するしかない。推進本部会議から出てきた案がそのまま最終案になるのではなく、その案に対して、市民会議と推進本部会議で意見交換をし、さらに一般市民にもパブリックコメントを行ったうえで、最終案が推進本部会議から出てくると理解したい。現時点で答申が重みを持つかどうかは判断できないが、どの程度反映された案が出て、どの程度意見交換できるかに掛かってくると思う。

(C 委員) 市長の諮問を受けて、第 1 次答申として出したが、今後、答申内容ができるだけ実現できるように市民の立場としてサポートしていきたい。全く反映されないということは諮問を受けた意味がないので、想定していない。次の課題にもエネルギーを注いでいきたい。

- (副議長) 市長に第 1 次の答申書を渡した際、委員の知恵を絞った答申がどのように活かされて、どうなったかについて、市民会議にも報告いただくようお願いした。市長を信頼し、全力を尽くして今後も検討を進めていきたい。
- (議長) プロジェクトチームの検討段階で、この会議に情報が出てくると思っていた。庁内の検討段階で議論が煮詰まっていない情報は出しにくいというのは分かるが、一步上の推進本部会議を経た段階であれば出せるということではないか。
- (事務局) 各課長が予算要求を行い、事業・施策を実施していることから、各課長を通して各課の意見をヒアリングして吸い上げており、時間がかかっている。答申いただいた内容でないと財政危機を乗り切れないと思っているが、様々な協議が残っているということも理解いただきたい。
- (議長) 推進本部会議で承認される前の段階でも、市民会議に出せるものは出してもらいたい。分科会の議論が始まるが、庁内での検討レベルという条件付きの情報であっても、提供いただかないと議論に取り掛かれないこともある。
- (D委員) 事務局の職員はこれまでの内容や経緯をよく理解されていると思うが、他部署の職員の中にはネガティブになっている方と前向きにやっぴいこうという方に分かれているように思う。マイナスに捉えられると市民サービスも低下するし、士気も低下するなど悪循環になる。新聞からの情報しかないのではないか。答申が出た背景や財政状況を各職員が理解しているか疑問である。庁内で検討会を行うにあたっては、職員が状況を理解したうえで進めてもらいたい。マイナスに捉えるのではなく、例えば給与 20%削減が嫌ならば、改革によって 19%削減になるように努力しよう、というように前向きに捉えてもらいたい。
- (事務局) 職員に向けて、市民会議に出た資料や会議録は庁内 LAN 上に掲出し、情報共有している。
また、各課ヒアリングでは、各課長、課長補佐、係長が出席するなか、事務局として企画課、職員課、財政課が初めに 20分程度かけて、市民会議の方向性や市の財政状況について説明し、このままではどうしようもない状況に陥る可能性があるということを徹底している。伝わりきっていない部分があれば、全て職員に伝わるようにしたい。
なお、11月 29日には長峯議長により再生計画策定に伴う職員研修を予定している。
- (議長) 全職員を対象に研修することになっている。後ろ向きの思考にならないよう、状況を理解してもらい、職員を元気付けられるような話ができないかと思っている。
- (C委員) 後ろ向きの思考になるのは、原因を外部に持って行って、自分には関係のない他人事と捉えているからではないか。今が厳しくても将来を考えて頑張りっぴいこうという気持ちで取組んでもらい、財政的に厳しくても、市民評価という点で職員に満足してもらいたい。

3- 1 協議事項 (全体会)

(1) 市民会議における各委員の取組み希望項目について…資料 3 資料 3-1

- (議長) 今日から補助金と施設維持管理に関する分科会がスタートするが、それ以外に、今年度後半の会議のなかで議論していきたい項目について、委員の皆さんに改めて尋ねてみた。他に提案があれば出してもらいたい。すぐに議論に入ることができるかどうかはわからないが、いつどのような形で採り上げるかについては運営委員会で検討したい。
- (副議長) 第 2 回会議のときに提出している取組み希望項目について、取り掛かっぴいない項目が多く、それを整理してからではないかという思いもあって、今回は提出していない。
職員が危機意識を共有できていないのではないかという話があったが、今後補助金削減や事業見直しの議論をする中で、市民からも不満が出てくる

のではない。皆で危機感を共有して乗り切る必要があるならば、広報での一方的な周知だけではなく、市民への意識の浸透をどのようにするか、早めに工夫していきたい。

(C委員) ニューパブリックマネジメントなど、市のマネジメントについて、将来に渡って良いまちに持っていくための経営手法や理念を提案したい。

(議長) 市民や議員へのアンケート調査という意見があったが、アンケートで出てくる市民の意識を見たとえ、具体的に取れるアクションがあるか検討してはどうか。時間的な制約の中で優先順位を付けることになるだろう。
他に意見があれば、問題が出てきた段階、気が付いた段階でその都度意見を提出いただければと思う。

(2) 議会・市民への意見聴取について

(議長) 前回までの議論を集約すると、議員に対しては、記名のアンケートにしてはどうかという意見があった。市民に対しては、全世帯数の10%であれば予算的にもアンケートが可能とのことなので、一般市民の方が市民会議のことや、財政の問題をどのように捉えているのか知るためにやってみようということだった。市民アンケートについて実施するとして、次回の市民会議(全体会)までに委員の皆さんにアンケートの項目案を提出してもらうという形で進めてよいか。

(E委員) 第1次答申で職員給与の20%削減という提言をしたが、職員組合と交渉がされるなどして結論が出るのはいつ頃か。交渉結果によって市民の反応も変わると思うので、結果を受けてからアンケートを実施するほうがよいのではないか。

(事務局) 職員の給与については理事者と職員組合との交渉次第ということもあり、結論が出る時期は今のところ不透明である。

(議長) 今回の市民アンケートの主旨としては、分科会で補助金や施設についての検討に入る前に、市民の方がどう思っているのか、今の財政状況についてどの程度理解されているのかという段階の意見を聞いてみたい。最終的に決着した内容について市民の方がどう思っているのかについては、次の段階で実施する必要があるかもしれない。

(B委員) この会議の傍聴者や各種団体など、切実に関わっている方や興味がある方をアンケートの対象にしてはどうか。

(議長) 例えば補助金を検討するために、関係する団体等を対象にしたアンケートも意味があるかもしれないが、対象者を絞ると、一般市民を対象としたアンケートとは目的が変わってくる。今回は補助金についてたずねるにしても、一般市民の感覚で補助金の認知度や考えを聞いてみる程度ではどうか。

(F委員) 自治基本条例制定のときは1,600世帯を対象にアンケートを実施したが、市民の声を聞くという意味ではそれなりの回答を得られた。質問の仕方によって回答が変わってくるので、質問内容を考えないといけない。

(G委員) 市のホームページを利用すれば、若い世代や主婦など、インターネットを通じてなら発言できるという方の意見が得られやすいのではないか。
また、市民アンケートとは別に、これまで伝書鳩メールに届いた意見や、公募委員に応募された方など興味を持っておられる方の声も参考にしながら進めていきたい。

(事務局) 伝書鳩メールでは4、5件の意見をいただいている。インターネットはパブリックコメントの実施時等に活用していきたいと考えている。
なお、インターネットでのアンケートと郵送の無作為抽出アンケートとは別の性質を持つので、集計や結果分析をまとめるのが難しい。

(議長) 情報が様々なところから入ってくるのはいいと思うが、市民へのアンケート調査は実施するというところでよいか。

- (委員) 異議なし。
- (議長) 次回の会議でアンケートの内容を協議するとなると、12月3日頃までに委員の皆さんの質問項目案を出してもらいたい。それを元に事務局と議長で構成して、次回、素案を出すというのがぎりぎりの作業だと思う。できるだけ早く実施するというスケジュールでどうか。
- (F委員) 年内に発送から回収までできないか。
- (議長) 次回、12月13日にアンケートが出来上がればその週に発送して、1週間程度の回答期間を設け、年内回収も可能だろう。
- (H委員) 次回は自治会長会との意見交換会があるが、そのとき、自治会長にアンケート用紙を全戸配布して回収いただくよう依頼するのはどうか。
- (事務局) 全世帯アンケートであれば、自治会長に報酬を支払い、全戸配布、回収をお世話になったこともある。
全世帯の10%、1,600世帯の場合、郵送料がかかる。現在、アンケート実施に関する予算を持っていないので、12月の議会で補正予算を審議いただくことになる。その場合、議決後の12月21日頃以降に発送することになる。
- (A委員) 市の広報誌と一緒に全戸配布して、回収は郵送としてはどうか。
- (事務局) これまでのアンケートの回収率は50~60%で、特に関心が高いものについては70%ということもあった。統計的には全世帯の2~3%の回答があれば傾向が出るとされ、全世帯の10%にアンケートを配布してそのうち50%回収できれば、全世帯の5%から回答があった計算になるので十分な結果が得られる。
- (議長) 多くの回答が欲しいが、たくさん返ってくるとそれだけ費用がかかるということにもなる。
- (C委員) アンケートの目的が、傾向がわかればよいというのであれば、全世帯の10%への郵送でよいのではないか。
- (E委員) 傾向程度なら委員が大体把握しているのではないか。
- (B委員) 自治会長だけを対象とするのはどうか。
- (D委員) 郵送の場合、無作為で抽出すると市の職員やその関係者なども含まれるのではないか。市役所の改革をするのだから、市役所の関係者を外すということとはしなくてもよいのか。
- (議長) 無作為で抽出しても利害関係者として、補助金をもらっている方や市の職員、関係者が含まれるかもしれない。完全な無作為で抽出するのはそういうところに意味がある。
自治会長を対象とする場合、市民アンケートとは別個の、特定の目的のアンケートになるだろう。
- (副議長) 全世帯にアンケートが行き渡れば、家庭で話題になり、市民への啓発もできるのではないか。自治会長に、アンケート用紙を全戸配布して回収いただくようお願いできないか。
- (B委員) 自治会長を通じて、全世帯ではなく自治会ごとに例えば5世帯ずつ選んでもらうのはどうか。
- (議長) 人の手を通して選んでもらうと、主観が入ってしまうことがあり、無作為とはならない。全世帯の10%を無作為でやるならば郵送となるだろう。
- (I委員) 統計上結果が得られるのであれば、無作為に全世帯の10%へ郵送することでもよい。アンケートの中身をどうするかが大切。12月3日までに提出する案としては、具体的な項目を挙げるのか。例えば補助金の実態について概要を書いておけば、啓蒙になるのではないか。アンケートの結果に縛られるのではなく、分科会での議論の参考となるように、質問事項を工夫する必要がある。

- (議 長) アンケートの中身が決まっていないので議論しにくいですが、分科会の議論に反映させるのであれば、具体的に聞く必要があるかもしれない。そうだと、次の会議までに委員の皆さんの考えはまだ具体化していないかもしれないので、内容を検討する時間を持ちたい。次回は 12月 3日までに提出された項目案をもとにアンケート素案を出して、持ち帰ってもらい、そのあと意見を出してもらい、1月の会議でアンケートの中身を完成させ、郵送することにしたがどうか。
- (委 員) 異議なし。
- (議 長) 議員を対象とした意見聴取については、アンケート調査を実施するということがよいか。
- (B委員) アンケートの内容はどうするのか。
- (議 長) アンケートの内容については、市民アンケートと同じようなスケジュールで決めることになるだろう。前回までの協議では、市民アンケートとは別の質問項目で、記名式にしてはどうかという方向になっていた。
- (D委員) これからの議会や市の再生について聞こうと思えば、来年4月が選挙なので、選挙前の3月あたりがよいのではないか。
- (議 長) 候補者にマニフェストのような形で聞いてみたいという意見もあったが、現職の議員にこれまでのことも聞きたいという意見もあった。
- (F委員) 意見交換会という形式はどうか。
- (I委員) あくまで意識の確認として、今回は現職にアンケートをとって、選挙後にもアンケートをとるということもできるのではないか。それ以上にどうしても必要であれば意見交換会というやり方もあるだろう。
- (議 長) 何を聞きたいかによっても、やり方は変わってくるだろう。
- (B委員) 「市議会だより」等で議会全体としての意見は出ていると思う。アンケートをとるならば、今よりも選挙の時期がよい。また、記名式だと会派の意見と異なることは書きにくいのではないか。
- (議 長) 選挙前に候補者と公開討論会をしてはという意見もあったが、物理的に可能かどうかわからない。
- (I委員) 無記名で自由に書いてもらえばよいのではないか。
- (C委員) この委員会の目的として、議員に何を聞いて、どうしたいのか整理したい。目的によって記名、無記名、直接対話と使い分けが必要だろう。選挙前に、政策として財政改革をどう思うのか意見聴取し、公表して、市民に判断してもらえばよいのではないか。
- (議 長) 市民アンケートもあるので、議員を対象とした意見聴取は時期をずらして来年の春に集中して実施するのが現実的かもしれない。選挙の時期に、候補者を対象として、公約のような形で回答してもらおうという形でやってはどうか。まずは市民アンケートを実施することにしたい。

当面のスケジュール

- (議 長) 次回は自治会長会との意見交換会を予定しているが、当日の進め方について了解をいただきたい。当日の内容は決まっていないので、自治会長会側の質問事項等を事前に出してもらおうと考えている。返答があり次第、事務局から委員の皆さんへ送付するので、目を通しておいてもらいたい。代表して答えたほうがよい事項については議長で対応したいが、自由討議の時間も設けたいと考えている。
- (I委員) 意見交換会はどちらが持ちかけたのか。
また、自治会長会側は答申書を持参されると考えてよいか。

- (議 長) 以前自治会長会理事会から市長宛にあった意見書のなかで要望されていた。答申は公表されているので、答申内容が議論のベースになるだろう。
- (C委員) これまでも意見をいただいているが、今後も自治会と連携して意見を伺いながらまとめていく中で、住民のために良くしていこうという視点での意見交換は重要だと思う。
- (議 長) 市を再生する点では、パートナーとして一緒に取組んでいく立場の方々だと思うし、市民アンケートで市民の意見を聞くということもあるが、様々な形で意見をもらうほうがよいので、市民の代表としての自治会からの意見をいただきたい。こちらからも問いかけをしてもよいのではないかと。対立するのではなく、協力しながらやっていきたい。

3- 2 分科会

- (事務局) 補助金に関する分科会、施設維持管理に関する分科会にそれぞれ分かれて、まずリーダー、サブリーダーを選任いただきたい。その後、今後の分科会の進め方について議論いただきたい。
- (議 長) 今日は分科会で1時間程協議いただいた後、再度全体会に集まってもらい、決まったことをリーダーから報告いただきたい。

<分科会ごとに分かれて協議>

3- 3 協議事項(全体会)

(1)分科会の報告

- (D委員) 補助金に関する分科会のリーダーはD委員、サブリーダーはJ委員となった。
似たような補助事業を課単位で分けて、それぞれの具体的な使用目的や事業費総額に対する補助割合がわかる資料を事務局に作成いただくこととした。資料をもとに、廃止も含めた必要度について、5段階程度の評価を行いたい。必要であれば担当課にヒアリングをしながら検討していきたい。
次回は資料が出来次第、絞込みを行い、順に検討していく。
いつまでに検討結果を出さないといけないのか。
- (議 長) 分科会からは途中、中間報告をしてもらいながら、来年5月までの間に5回の議論を踏まえて、結論を出してもらうことになる。
- (B委員) 他に取組みたい項目についてはいつ議論するのか。
- (議 長) 分科会の進み具合にもよるが、分科会が1時間程度で終わるならば、残りの時間で全体会を開いて、他の議論をすることもできるだろう。1月の分科会の様子を見て検討したい。
- (K委員) 施設維持管理に関する分科会のリーダーはK委員、サブリーダーはL委員となった。
チルドレンミュージアムと図書館については、ぜひ議論したいという話があったが、既に市の内部で改革案が提案され、議論されているとのことなので、ある程度の意見がまとまった段階で分科会に出してもらおうということにして、分科会としては当面このまま置いておく。できれば、削減効果が大きく、市民にも重要な、幼稚園、保育園を含めた学校の統廃合の話と、支所、公民館の統廃合を含めた議論をしていくこととした。
次回は学校の統廃合を含めて議論していく。市の計画案があるが、教育委員会の担当者に、現状と将来について話を伺いたい。それを踏まえて分科会で議論を進めていきたい。
- (議 長) 各分科会の進め方については手探り状態で、今後どう展開していくか読めない部分もあるが、1月にもう一度やってみるということで様子を見て行きたい。

(委 員) 異議なし。

- 以上 -